

第3回 武蔵野市多文化共生推進懇談会会議録（要録）

【会議概要】

日 時	令和4年8月17日（水）19:00～21:00
場 所	武蔵野市役所 西棟4階 411会議室
出席委員	薦田委員、新居委員、田村委員*、木下委員*、中澤委員、ウ委員、田川委員 （*はオンライン参加）
事務局	多文化共生・交流課職員
傍聴人	7名
会議次第	1. 開会 2. 議題 （1）武蔵野市多文化共生推進プラン（仮称）中間まとめ案について （2）パブリックコメント及びワークショップの実施について 3. その他
配付資料	資料1 傍聴者アンケート 資料2 第2回庁内検討委員会での意見への対応について 資料3 武蔵野市多文化共生推進プラン（仮称）中間まとめ案 資料4 多文化共生推進プラン（仮称）中間のまとめについてのパブリックコメント募集およびワークショップ企画（案）

【議事】

1. 開会

2. 議題

(1) 武蔵野市多文化共生推進プラン（仮称）中間まとめ案について

武蔵野市多文化共生推進プラン（仮称）中間まとめ案について、事務局からの説明があった。

A委員	<p>簡易版を出す予定があるのか。よく内容がまとまっていて素晴らしいが、読むのが結構大変だ。</p> <p>例えば、箇条書きで要点を初めに出すなど、読みやすさについての工夫が何かあるといい。</p> <p>外国人の方たちが読めるような形を検討したほうがいいのではないか。市がこのような方向性、方針、支援の体制を組んでいくことに関して、多くの当事者は関心があると思う。イーजीリードなど、何か検討されているか。</p>
事務局	<p>プランの完成版は、先行して行った外国籍市民意識調査の報告書の概要版のような分量で作れればと思っている。</p> <p>冒頭に要点を記載する件については、記載内容を踏まえ検討する。</p>

	<p>また、外国人の方にも読んでいただきたいと思っている。現時点では具体的に決まっていないが、ふりがな付きや、やさしい日本語といくつかの言語での作成を選択肢に入れ検討している。</p>
B委員	<p>目標のところでは施策ごとに具体的な数値目標を考えているか。進捗管理について、各部署でどのような取組みが行われているか、あるいはまだ行われていないかをどう確認していくのかについて、今後書き足していくのか。</p>
事務局	<p>今回は本市の多文化共生推進の基本的な考え方および施策の方向性を示す指針という扱いになっており、まず方向性を示すことがプランの役割だと思っている。現時点で目標数値を出すことは考えていない。進捗管理に関しては、17 ページ(2)実施状況の把握に記載している。庁内については一定間隔で確認することで、取り組んでいるかを確認できればと考えている。懇談会の意見として、より強いものが必要だということであれば、庁内検討委員会の方で検討したい。</p>
B委員	<p>数値までは今回はいらないという気はするが、拠り所となるもう少し具体的な目標を考えてもいいのではないかと。進捗管理についても、今の段階でなくてもいいかもしれないが、庁内だけではなく外部からも確認できるような体制を整えておくほうが良いと思う。</p>
C委員	<p>「平成5（1993）年には、雇用関係の下でより実践的な技術、技能等を修得させる技能実習制度が創設され、主にアジア諸国から多くの研修生・技能実習生を受け入れるようになりました」という表現は、市のプランの中であえて書くべきなのか。賛否両論ある制度をあえて書く必要があるか。技能実習生をたくさん受け入れている地域ならば明記することは必要だと思うが、武蔵野市には実質的に非常に少ない状況なので、検討したほうがよい。</p>
事務局	<p>今回のプランの背景として、まず国の動きがあって市が動くところがあるので、それを踏まえて国のことを記載した。ただ、ご指摘のとおり、武蔵野市の状況を考えて修正を検討したい。</p>
B委員	<p>例えば留学生 10 万人計画や武蔵野市に関連する国の他の施策、また平成30（2018）年の労働者の受入れと共生政策の推進に関して閣議決定があり、入管法も改正して、今年の6月にはロードマップを作った等、そういった国の動きについても触れておく必要がある。また、武蔵野市で国際交流協会を全国に先駆けて作ったというのはその通りだが、それも旧自治省の国際交流の大綱があったということもあるので、外国人施策に加えて、地域国際化施策の国の動きについても言及してはどうか。</p>
D委員	<p>そもそも武蔵野市がこのプランを作ること自体は、総務省から話があったからというのが直接的な理由かと思うが、今非常にこの分野は動いていて、特にコロナ禍の中で技能実習生の行き来が難しくなっていたり、ミャンマー</p>

	<p>やアフガニスタン、ウクライナ等の動向があって、避難民的な方が日本に来ていたりする。また、コロナ禍で外国人が動きをとれなくなったこともあって、日本は労働者も足りないし、アジアも高齢化が進む中で、優秀な人材を取り合う競争の世界に入ってきたと思う。このような周辺環境を踏まえたほうがいいと思う。</p>
B委員	<p>前回、外国人住民なのか市民なのか、在住外国人なのか、が重要とコメントして、結論として在住外国人市民という言葉になったようだが、これはこれで面白いと思う。ただ、4ページの外国人人口の推移の中で「本市の在住外国人市民の数は」と書いてあるが、これは外国籍を有する市民のみだからいいのか。矛盾はしていないのか。</p>
C委員	<p>外国籍のときは、在住外国人市民。</p>
事務局	<p>住民基本台帳から統計を出しているのだから、言葉の定義としては間違っていない。ただ、外国籍の方以外も広く含む言葉として「外国人市民」を用いると言ったすぐ後に「在住外国人市民」の定義が出てくると混乱するかもしれないので、検討したい。</p>
B委員	<p>しっかり読めば理屈は合っているが、読んでいて揺らぎを感じる。</p>
C委員	<p>外国人市民では「広い方々を指す」という定義があって、いいと思うが、一方で、例えば外国籍市民という言葉も残してもいいと思う。外国籍市民だけであることに問題があったわけで、2つの言葉が残ることに問題はない。在住外国人市民という言葉を作る必要があるか。</p>
B委員	<p>新たに定義するのであれば、もっと後ろのほうが良いのでは。13ページ以降のプランの基本的な考え方のあたりに持ってきたほうが良いのでは。</p>
事務局	<p>外国籍市民という言葉から置き換えなくてもいいのではないかという点については皆さんいかがか。</p>
E委員	<p>外国籍市民でいいと思う。在住外国人市民のほうが外国人市民よりも範囲が狭いということになってしまうと、在住でない外国人市民がいるのかというふうに読めてしまうと思う。</p>
F委員	<p>全く同意見。読んだときに違和感がある。在住を追加するだけで、急に日本国籍を取得した市民がいなくなるのは、変だと感じた。</p>
事務局	<p>武蔵野市自治基本条例の中で、「市民」が在住だけでなく在勤・在学も含まれた形で定義されている。市の定義とのぶつかり合いが若干ある。今回は似た言葉でありながら「在住」と入れただけで範囲が狭まる点は良くなかったと感じている。施策について説明する13ページ以降で定義するというのも検討していきたい。</p>
F委員	<p>在住外国籍市民のほうが一般的。外国籍に限定した話は外国籍のままいい</p>

	<p>いと思う。</p>
B委員	<p>このプランが対象とするのは、国籍だけではなくてルーツが外国である等を含めた人たちを言いたいという趣旨と、武蔵野市では市民という在勤・在学も入るといのはよくわかる。一方で、例えば総務省のプランや他の自治体では「外国人住民」と書いているものが多く、住民基本台帳のデータを使うときは「外国人住民」が良いのではないかと。「外国籍住民」のほうがより正確だったらそれでも良い。データを扱うときは「住民基本台帳に載っている外国籍の人」、アンケートに関しては「外国籍住民」、とそれぞれの場面できちんと言葉の定義が分かっているのではないかと。大事なのは、このプランでどこを扱うかなので、そこは言葉の定義をあまり狭めないほうが良い。</p>
事務局	<p>皆さんの意見を踏まえて、修正案を考えていきたい。</p>
E委員	<p>外国人住民の滞日年数などのデータはあるのか。多国籍化や多様化は言われているが、現場では定住化も感じている。そういったデータを追加できると良いと思う。</p>
事務局	<p>外国籍市民意識調査の回答では0年以上の方が21.3%、10年から20年という方が19.5%、5年から10年未満の方が23.9%、3年以上5年未満が17.6%、1年以上3年未満が12.7%、6か月以上1年未満が3.6%、6か月未満が0.4%、という構成。これは調査に回答した方の構成なので、回答していない方は含まれていない。記載については検討したい。</p>
E委員	<p>長く武蔵野市にいる外国人もたくさんいることを示すことは、戸惑いを感じている市民への説得材料にもなるのではないかと。</p>
C委員	<p>今急激に増えているわけではなくて、私たちと同じように暮らし続けている方がたくさんいるということだ。定住化というのは本当に大事なポイントだと思う。</p> <p>「武蔵野市の多文化共生を取り巻く状況」では、プランの中で重点を置く部分に対応した表が載るといい。5ページで紹介されている永住者、技術・人文知識・国際業務、留学などの在留資格の特徴がこのプランにどう反映されているのか。例えば年齢層の分布等、プランの内容に合った形で表の抜粋があったほうが良い。在留資格は、それによって制度や使える福祉サービスも異なるため外国人相談の現場ではすごく大事だが、現状ではこのプランを読む方にとって、大事かどうかわかりにくいのではないかと。</p>
F委員	<p>この表を読んだとき、個人的には武蔵野市は技術・人文知識・国際業務の方が多ということかと思った。</p>
D委員	<p>私も言葉自体に少しなじみがある。これを生かした提言があって然るべき</p>

	だと思っていた。
C委員	逆にこれを載せるのならそれに合わせたプランを、というところもある。
A委員	何を伝えたいかだと思う。嘘は当然書いてはいけませんが、伝えたいことをデータを用いてうまく見せるということはできると思う。何を武蔵野市民に読んでほしいのか、何をわかってほしいのか。そう考えると、正直なところ、この案では武蔵野市の特徴が伝わりにくい。
C委員	技術・人文知識・国際業務の方々は、ホワイトカラーや高度な技術を持った方で、非常に能力が高い方々。そういう方が多いからこそ、武蔵野市はこういうことをしていきたいと繋がるのであればとてもいい。だからこそ定住化が進んでいるというのも武蔵野市らしさだと思う。そこについて踏み込まないともったいない。ライフプランや年齢層にあった支援というのを後半で訴えていくときに、外国人の状況がもう少しわかる統計があったほうがいいのかと思う。年齢分布は、そのまちの特徴でもあるため、検討いただきたい。
G委員	表は単純に武蔵野市の特徴を表すものとして掲載されている。明らかに技術・人文知識・国際業務が、他の総数、東京都、多摩26市と比較しても割合が多いのが武蔵野市の特徴。これがきれいに次の政策にはまる形で含めていけると、計画としてはいいと思う。ただ、作ろうとしているものは指針で、これから進むべき方向性を見いだしていくところであるため、逆に今これだから次何をしようというモチベーションにしたいという意味では、この載せ方もありだと思っている。年齢層については、既に外国籍市民意識調査の中でもデータが出ているので、載せられないことはないが、それが武蔵野市の特徴なのかということとそこまでの分析ができていない。
B委員	例えば永住者の方が10年前、20年前と比べてどのぐらい増えているかや、技術・人文知識・国際業務などの家族を帯同できる在留資格の人がどのぐらい増えているか等、経年変化も分かるとうい。一般の人は技術・人文知識・国際業務の割合が全国平均より高い、と言われてもどういうことか分からないと思う。家族を連れて来ることができる在留資格だから家族滞在も増えている、世帯を形成しお子さんもいて、ゆくゆくは高齢化をしていくだろう人たちが10年前、20年前と比べて増えている、ということがここでわかれば、その後の展開がスムーズだと思う。
F委員	第1回懇談会でアンケート結果を見たときに、武蔵野市の特徴的なところは、日本語がかなりわかる人と、長めに住んでいる人が多いということがわかった。この中間まとめはすごくきれいにまとめられているけれど、指針のところに武蔵野市の特徴について言及されているものがあまりないのではないかと感じる。先ほど挙げた特徴をベースにして、もう少し指針の特徴があれば良いと思う。例えば、長い期間住んでいて、日本語もわかる人が多いと

	<p>ということなので、M I Aの事業が他の市よりもうまくいっているとか、もう少し強調できるのではないか。</p>
事務局	<p>必ずしもここに載せたデータが施策に繋がるという形では書いていなかったのので、検討したい。在留資格については検討委員会でも議論があり、優秀な人材が武蔵野市を選んで住む、という趣旨かと思うが、検討委員会では行政が住む人を選ぶようなことはできないという意見があった。</p>
D委員	<p>ワンストップ窓口の可能性について検討を行う、を残していただいてありがたく思う。検討委員会で議論されたこと、全てよくわかる。ただ一方で、外国籍市民意識調査の23ページを見て、困りごとに「公的な手続きで困ったときの相談先がわからない」というのが18.4%で、個別項目の中で2番目に多いので、これがワンストップサービスの必要性を示していると思う。このデータはプランに書いたほうが、なぜそういう施策があるかを説明できるのではないか。</p>
事務局	<p>その点については、外国人の方が安心して武蔵野市に暮らしていけるために何かできることがないか考えている。</p>
A委員	<p>「より一層M I Aの存在を知ってもらうことが重要であると考えられます」に対して、言っぱなしというか、具体的にこんなことをやるという表現があったほうがいいのではないか。</p>
E委員	<p>「コミュニケーション支援や生活支援を受けたい人によりM I Aを知ってもらう」と書いてあるが、これに加えて、M I Aに協力をしたい外国人の方も含めて知っていただく、という方向性も書けるといい。</p>
F委員	<p>自分が最初市役所に行ったときにM I Aについての情報を得られなかったことがとても気になった。M I Aを宣伝するときに、M I Aが何かを手伝いますとか助けますという点だけではなく、手伝う人も募集していることが分かる情報も同時に加えて、実際にできるアクションとして、ここである程度書かれると嬉しい。</p>
事務局	<p>委員が今回M I Aを知ったきっかけはインターネットなどか。</p>
F委員	<p>そのとおり。相談したい用件があり、インターネットで調べて、実は武蔵野市にM I Aというところがあると遠回りしてようやく知ることができた。</p>
事務局	<p>どうしたら認知度の向上に繋がるか、今後M I Aと考えたい。</p>
C委員	<p>ホストタウンの段落で、「本市における異文化理解の深まりは」とあるが、ルーマニアと相互に交流してきて、相互に支え合うような活動をしているのが武蔵野の特徴であると思うから、ルーマニアという国を理解するという言葉がここに入ってくるのは少しもったいない。「市民同士の友情や」の次の一文は、これまでレガシーの議論で出てきた言葉は「異文化理解」ではなく「相</p>

	<p>互理解」という表現だった気がする。</p> <p>「誰もが誇れるまちへ」の「誇れる」を前回提案したのは私だったが、未来志向があって、その方向性に対して結果的にみんなが自分のまちがよいと思えたらいいなというところで「誇れる」という表現を使った。今回、基盤作りのことがプランの中核で書かれていると思うが、そこにいきなり「誇れる」と出てくると違和感がある。「安心して暮らせるまち」という当初の案は基盤を作っていく中で実現性が近い気がするが、前は未来志向の話をした中での表現だったので、この10年間の指針として「誇れる」という表現が、今の時点でいいのかどうか。</p>
D委員	<p>指針であり、なおかつ次の長期計画まで長い期間やっていくことになると思うので、私も未来志向であるべきだと思う。「誇れるまちへ」はいいと思うが、私はもっと外国人の方に武蔵野市を選んで住んで欲しい、外国人を増やしたい、ということが意見としてあるので、そういう意味合いからすると、「誰もが誇れ、住みたくなるまちへ」とぜひしたい。</p>
F委員	<p>このフレーズは10年後のゴールという感じか。方向性のみか。</p>
事務局	<p>必ず実現できる形ではなくて、そうなるべきだという理想を含んだものになると思う。</p>
G委員	<p>ある意味ではゴールとも言えると思う。ただゴールではあるが、それを続けていく、そこからさらに育てていく一つの目標だと思う。特徴として、「私たちは武蔵野市に住んでいることに誇りを持っている」「武蔵野市の市民であることに誇りを持っている」という人が非常に多い。すでに誇りを持っている人がいる。しかし、さらにもっと良くしていこうという活動を誇りに思っているところもあるため、現在進行形の話、今ある状態、さらに目標、三つの意味での誇りというのがあるのではないかと思う。この言葉の使い方がすごく難しいと正直思う。</p>
F委員	<p>これはキャッチフレーズとして色々なところに出てくるものか。</p>
G委員	<p>一番最初に出てくるフレーズかもしれない。</p>
F委員	<p>そうすると、短く簡単なほうがいい。内容をどうすればいいかわからないが、単純に使い方として。</p>
B委員	<p>誇りは何に対して持つのか。まちに対して誇りを持つのか。</p>
G委員	<p>まちに対しても、人に対してもだと思う。</p>
B委員	<p>例えば、この表現を翻訳しようとするとても悩む日本語ではないかと思う。主語や対象が何なのか非常にわかりにくい。「誰もが誇りを持てるまち」なら分かるが、「誇れるまち」だと、まちにかかっているのか、人にかかっているのか、どちらにも取れる。何が大事な点なのか理解がしづらい。</p>

G委員	冷静に考えると、誇りを持つのは人だと思う。ただ、そのまち自体が持っている何か、そこに人が暮らしている町並みや景色も含めて、このまちに誇りを持っているという言い方をするのはないか。誇りを持つのは人間なのかもしれないが、色々なものを含めて誇りという言葉は使われる。確かに英語に訳すのは難しいと思う。
B委員	みんながまちに誇りを持っている状態、ということでは。
E委員	多様性を認めて尊重し支え合っているから、それを私が誇りに思う、ということが伝わるような並びになるといいと思う。「多文化共生が実現している武蔵野市が私はすごく誇らしく思う」と言いたいのでは。確かにこれを訳すのはすごく難しい。
F委員	ここにこそ、やさしい日本語を入れるべきではないか。このキャッチフレーズ、そしてこのプランの中ですごく好きなところは、これから日本国籍の市民だけではなくて外国籍の市民も色々なことに参加できる、と書いていて、とてもいいと思っている。そう考えると、このキャッチフレーズも色々な言語に翻訳されるべきだと感じる。「誇れるまち」ではなくて、単に「大好きなまち」とか。簡単すぎるかもしれないが。
B委員	「誇れる」という日本語がちょっと難しいと思う。「誰もが誇りを持てるまち」「みんなが誇りを持てるまち」にするとか、主語と述語をもう少しわかりやすくできないか。趣旨自体は私も賛同するし、とてもいいキャッチフレーズだと思うが、もう一工夫してわかりやすくされるといいと思う。
C委員	当初の「誰もがいきいきと安心して暮らせるまちへ」からこの「誇れるまちへ」となったが、それは方向性を指し示していて、武蔵野らしさが現れてくるが必要ではないかということだと思うが、この「誰もがいきいきと安心して暮らせる」ことは、完全に抜け落ちてしまってもいる。だが、後半のプランでこの領域のことがいっぱい書いてある。だから、出てくる施策とキャッチフレーズが合っていないというか、方向性を指し示すという意味では、「誇れる」を分解することも大事だが、施策と一致してこないのが少し気になることも言及しておきたい。14ページ以降のタイトル(1)(2)(3)のところと「誇れる」はギャップがある。
F委員	候補のフレーズを出すことはできないけれど、例えばこの意味を英語が母語の人に説明して、英語だとどのような表現になるか教えてもらい、その英語の表現をGoogle翻訳に入れて日本語がどうなるか試してみる。そして中国語もネパール語も韓国語も同じようにやる。そういうやり方で、それぞれの母語の人が理解した後の外国語の表現を日本語に翻訳したものが集まれば、そこから良いアイデアが出てくるのではないと思う。

A委員	14 ページから施策の方向性が書かれているが、これの主語は行政でよろしいか。念のため確認したい。
事務局	市のプランのため、主語は基本的に市になっている。M I Aの取組みについては、「支援する」という形で市が支援するというような書き分けをしているつもりだ。
E委員	<p>「④誰もが参加できる事業の推進に向けた取組み」というところで、2行目の「研修等を通じて市職員の意識向上を図ります」ということだが、意識向上を図ることで在住外国人市民の方もイベントに参加しやすくなるような内容になるという意味か。何が目的なのか、ぼやける書き方かなと思った。「意識向上を通して外国人市民が参加しやすくします」のように、直接的に書いたほうが良いと思う。</p> <p>実際、外国人の多様な方に参加してもらうのはかなり難しい。事業をやってもすごく難しいと感じるところであるため、それに向けて努力していくということで、はじめの一步と理解した。</p>
C委員	<p>二点ある。一つ目、「②青少年期からの異文化理解促進」の「異文化」は少し気になる。「多文化」と書くところが多いと思う。ただ、これも「異文化」という言葉を使っているのであれば「異文化」なのかもしれないが、異なる文化を理解するよりも文化が多様にあるということ、ここでいうところの「多様性を認め」という部分と同じなら、「多」という言葉のほうが「異文化」よりも、特に青少年と言うときにいいのではないかと思う。</p> <p>二つ目は、この①から⑦の並び順も、意識して並べているのか気になる。具体的な内容もそうだが、この「偏見や差別の解消に向けた取組み」が一番下にきて、「多文化共生のきっかけづくり」が上に来るのもいいとは思いますが、ダイバーシティなどの項目の並び順もきちんと考えたほうが良いと思う。</p>
事務局	一点目の「異文化理解」と「多文化」という言葉については、前回懇談会で「多文化理解」という言葉はおかしいというご意見をいただいて、その相手の文化を理解するという意味で使用した。
C委員	本来なら、海外との都市交流を通じて、青少年期からの「相互理解」、ということではないか。「異文化理解」は一般的にこのように使っているものなのか。
事務局	今回の修正にあたっては、インターネット等で検索した結果、「異文化理解」はあるが、「多文化を理解する」という表現はなかったと記憶している。「多文化共生」については「推進する」とか「理解する」と表現されていたため、それを採用した。改めて全体の文脈も含めて整理していきたい。
D委員	あとは「異」という字にネガティブな響きを感じるかどうか。

C委員	「異なる」にネガティブな印象を感じないのであれば問題ないのかもしれない。
A委員	「多文化の理解を促進する」という表現は座りが悪いような感じがする。「文化が多様であることを理解する」ということになるのではないか。「青少年期からの文化の多様性に対する理解の促進」でいかがか。
事務局	今のでよろしければそのような方向で示すことができればと思う。
E委員	実はM I Aの文章でずっと「異文化理解」という言葉を使ってきた。「国際理解」や「異文化理解」という言葉を使ってきたが、今のトレンドや状況を考えて、「多様な文化的背景をもつ市民の相互理解」に全部書き換えた。
C委員	その言葉がいいのではないかと思う。
D委員	異なることはいいことだというぐらいの発想の転換が本当は必要だと思う。
C委員	異なること、違うことが良いことだ、というぐらいまで進んだら、「異文化理解」という言葉も生きてくる。
D委員	ただ、一般的にそうでない現状においては、今おっしゃられたことのほうがいいのかもしれない。
E委員	文化は変化するものだ。違うところもあるが、同じところもあるというのが一般的だと思うので、多様性の理解が一番いいと思う。
C委員	どこかの市に、違うことに特化したキャッチフレーズを作っている市があったと思う。違いがいいということをあえて言っているところがあったと思う。異なることはいいことだというスタンスもとても新しい。そこまで踏み込むのもまた一つだと思う。 ①の「多文化共生のきっかけづくり」という言葉がちょっとわからない。多文化共生のきっかけとはどういうことなのか。
G委員	意識なのかもしれない。
C委員	意識、なのか。
G委員	何か違和感はある。
C委員	言いたいことはよくわかる。ここにいる人たちは議論してきているから、多文化共生のきっかけが大事だとわかっている。でも何かを補足しないと何か言葉が抜けている気がする。
事務局	最初の案では「多文化理解のきっかけづくり」としていたところ、「多文化理解」を「多文化共生」に修正したことで、言葉が足りなくなっているかもしれない。ここに多文化共生の理解、相互理解が入ったほうが良いということであれば、修正したいと思う。
B委員	一つ目のところは多文化共生というよりは、地域で暮らす外国人との出会

	<p>うきっかけを作るとか、外国人住民がたくさん暮らしていることをもっと知ってもらおうとか、そういう意味合いで「多文化共生のきっかけづくり」と書かれている気がするので、ここは「多文化共生」ではなく、「外国人市民との相互理解の促進」や、「外国人の方と知り合うきっかけ」としたほうがいいのではないか。</p>
G委員	<p>どちらかという、外国の方に接すること、その接点のきっかけを作るといことよりは、多文化共生という考え方を知らない方たちに知ってもらうことも含まれていると思う。そうすると、必ずしも人との接点の話だけではないと自分は理解している。もう少しここは説明が必要で、言葉が足りないというのは先ほど事務局が言ったとおりだと思う。</p>
B委員	<p>②からその後全部、結果的に多文化共生の理解である。だから、おっしゃることはよくわかる。逆に言うと、外国人住民のことを理解するというのが項目としてはないが、①はそこを書いたほうがいい気がする。多文化共生のことをしっかり知ってもらうのはその後全部に共通することのような気がする。</p>
C委員	<p>武蔵野の10年先のことを指針として示すときに、参加とか、一緒に支え合うことがこのプランで出されているときに、外国人住民の方々の参加、一緒にやろうというところを先に打ち出すのも一つだと思う。武蔵野だったら「知り合う」ことよりもそこを超えて、「一緒にやる」ところからスタートするのだというぐらいでもいいと思う。他のまちだとまず知り合うところから、多文化共生とは何かを学び合うところからがスタートだが、参加というところを大々的に打ち出してもいいのではないかな。それはこのM I Aのことが書いてある(1)の③とも重なると思うが、「さらに活動が広がる」と書いてあり、元々あるものからさらにという方向性を示すことを、この①でも示されてはどうか。もちろん関心の薄い方や抵抗を感じる方に対するところからスタートというのは事実だと思うが、それは⑦の差別の部分とも繋がってくると思う。</p>
D委員	<p>13ページの基本目標で(1)、(2)、(3)と書いていて、その後で施策が並んでおり、施策をまとめる言葉としては適当だと思うが、(1)、(2)、(3)はどこのまちでも同じような話だと思う。むしろ14ページ以降で、武蔵野市だから、参加型で、みんなと一緒にやろうみたいなことがあったり、特徴的なところがいろいろあったりするの、改めてこれが三つの基本目標だと大上段に構えなくてもいいのではないかな。だからといって、その特徴的なことを題名につけて、三つの基本目標とももちろん言えないと思う。まとめ方としてはこの言葉でいいのかなと思いつつも、わざわざここで基本目標はこれと言う必要があるのか。</p>

G委員	この3つの柱を立てることについては、元々の国のプランの流れを踏襲している。そのまとめ方としては、一つのタイトルに対していろいろな要素が入る形になるので、行政側としては、あまり違和感がなく、一番スムーズに皆さんに説明しやすい形になっていると思う。
事務局	(2)生活を支えるコミュニケーション支援と情報発信の強化のところでご意見があれば承りたい。
B委員	「④日本語教育の推進」のところに、市立小中学校の児童生徒のことが書かれているが、次の教育のところで触れているので、これはここに書かなくてもいいのではないかと。
事務局	改めて記載の整理をしていきたい。
D委員	<p>同じ④で、日本語教師の配置を書いていただきたいと強く思っている。委員会の中では、児童の在籍数が日本語学級を設置する必要があるほどではないという認識で、まさにその通りだと思うが、現状を良しということでは全くなくて、私は増やしていくべきだということを意見として持っているので、増やしていく誘因にするためにも教師を配置することを、できればはっきりと言ってほしいと強く考えている。</p> <p>例えば高度外国人人材を武蔵野市は優先的に増やすとかは当然行政として言えないだろう。ただ、在留資格が「技術・人文知識・国際業務」の方が多く、ビザの中でも家族帯同が許されるような方が多いのが武蔵野市の特徴で、それはいろいろな事情があると思う。住みやすい街だし、本当にいい街で、その分地価が高い。そして、こういったことは結局繋がってくるので、そういう特色を生かして、外国の方をさらに増やしていくことを考えるのであれば、このまちに来れば、この学校に行けば、日本語教師が最初の生活の一部を助けてくれるということを施策として打ち出すだけで、あとはもう自然に増えてくる部分もあると思う。どういう人たちを増やすとといったことまで言わずとも、施策でぜひ打ち出してほしいというのが、私の強い武蔵野市への期待である。</p>
E委員	同じく④の「日本語教育の推進」のところで、MIAの役割を1番目に書いていただいているが、私たちが日本語教室を安定的に運営していくことがとても大事ではあるが、前回も申し上げたとおり、ボランティアで行っている日本語教室なので、体制的に十分な人を受け入れ、安定的に運営していくことは大変になっている。他地域や東京都との連携はもちろんだが、現状維持ではなく、今後も体制を強化していく方向性をここに入れていただけたほうが良いと思う。
B委員	例えば、「日本語教室の安定的な実施に向けた体制の構築を目指します」の構築を強化と書くのはいかがか。もう少しボリュームがあってもいいのなら、

	やはり今までとこれからとで、地域に求められる日本語教室のあり方は変わってくると思うので、それを踏まえた上で、今までのあり方でいい部分は残して、改善して、足りない部分は補っていかなくてはならないので、そこは、引き続きから始まる文章だが、体制強化ぐらいで、書けるのであれば書いてもらうといいのではないか。
事務局	前回の懇談会で委員から、ボランティアゆえの不安定さも伺ったが、事務局で修正するにあたり、気にかかっていたのが、今までボランティアの方達の思いでやられていた部分を、不安定だからといって市で、例えば民間事業者に委託するようなことをして良いものかというところがある。「安定的な実施に向けた体制の構築」と表現したが、具体的な動きが書けるようであれば、ぜひ書かせていただきたい。
E委員	現状の体制で武蔵野市はよくやっているほうだし、ボランティアの方たちもプライドを持って行っているので、そこから取り上げるような形ではなく、協働して一緒に行える、補完的にできて、不安定な部分は公費で補うとか、専門家の手が入るとか、両輪でできたらいいと考えている。
C委員	この④に議論が集中しているのには理由がある。 これは日本語教育推進法によって自治体の責務だとされている中で、国は体制整備をしていくと言っていて、令和4年度の総合的対応策の最初にきているのが日本語教育だ。ゆえにここに議論が集まるのは必然だと思う。この表現が10年後に見たときに、こんなことを書いてしまっている、とまらないようにしなくてはいけないというのが私たちの役割だと思うので、この表現は、オンタイムで言葉が選ばれて語られている領域なので、しっかりと国や都の動き等を見た上で、言葉を選んで書くことが大事だと思う。日本語教育においては、ボランティアという言葉は今ほとんど使わない。日本語教師、または日本語教育コーディネーター、学習支援者という言葉を使うことも多い。ただ、武蔵野の場合はM I Aがあるので、ボランティア活動というのがすごく全面に出てきているから、その文脈の中でボランティアという言葉が使われていると思う。だが、逆にそれが混乱を生んでいるということも言及しておきたい。 武蔵野市のすごいところは、日本語教育のプロの方々が市民活動としてボランティアで活動されているところだ。他の地域ではボランティアとアマチュアという言葉がイコールだが、武蔵野はそうではない。ここはM I Aと相談しながら書いたほうが良いと思う。そして、子どもの日本語教育は領域が変わってくるので、子どものことは(3)②でもっと深く、教育の領域でまとめたいほうが良い。生活者のための日本語教育が(2)④になると思う。
E委員	補足すると、M I Aもボランティアだけで運営しているわけではない。プ

	ロの日本語学習支援コーディネーターに委託をお願いしている。
C委員	日本語教師の役割がクローズアップされている状態にあるので、その言葉が出てきてもいい。日本語教師の配置が学校現場に難しくても、地域においては必要だったりする。しかしお金が必要。 ボランティアという言葉をごくまで使うかも考えたほうがいい。「市民参加による活動」ということに意義がある。
B委員	(3)②に「希望する人が進学できるように」という表現があるが、これを「希望する進路を選択できるように」とするといいと思う。進学を希望しない人もいるので「希望する人が」と直したと思うが、希望する進路を選択できるようにサポートしていこう、ということだと思うので、ここはやや幅を持たせていくといいと思う。
D委員	(2)④が生活を支える日本語であるとする、小中学校での教育の部分は(3)②で日本語教師等も含めてしっかり書いていただくのがよいと思う。今の文章だと、手続きの話だけなので寂しい。
B委員	③の「誰もがその人に合った」というところだが、最後が「多言語対応を支援します」となっているが、必ずしも言語だけではない部分があるので、「サービス提供機関の配慮を支援します」とか「多言語異文化対応を支援します」とか、言語だけではないニュアンスが追加されるといいと思う。例えば介護保険がない国のほうが世界には圧倒的に多いので、翻訳しても伝わらない部分もある。文化的な背景も含めた表現にするといいと思う。
C委員	17ページ「プランの推進について」の「(3)関係機関等との連携」で、まずM I Aのこと、次に国の国際化のこと、そして近隣の市町村との連携が書いてあるが、例えば国から始まり近隣でやった、そしてM I Aに戻るのがよいと思う。近隣の市区町村との広域的な連携も検討していくというのが終わりの文章として来るのはちょっと残念。国と近隣、そして武蔵野市における特徴的な活動をしているM I Aを持って来るほうが、この中間のまとめではよいと思う。
B委員	最後の段落を2番目に持ってきたら、割と流れとしてスムーズかと思う。今の第3段落が最後になるほうがいい。
E委員	最後に「近隣他市区および近隣国際交流団体」と書いてあるが、近隣だけではなく、今M I Aは都内の色々なところと連携をしているので、近隣というのを取ることにはできるか。
C委員	M I Aへの相談は全国から来ている。専門的なことや言語的なことは、今は全国的にネットワークを作ってやっている部分があると思う。ICTの利用も含めて、広域性はすごく大事だと思うし、もちろん近隣も大事だと思う。ただ近隣ぐらいでないと市の行政のプランとしては、難しいものなのか。

事務局	少数言語の対応ということで、実際に対応できる方が行ったり来たりするという事になると、近隣という要素も必要なのかと思い記載した。
E委員	東京都内で協力することが非常に多いので、都内がいいかと思う。M I Aでも武蔵野市の市民を別の区の相談に紹介することもある。希少言語については、やはり人材が武蔵野市だけで全ての言語をカバーできないので、いろいろな地域の人がそれぞれのリソースをシェアする形で協力しているのが実情になる。
C委員	都内がいいのでは。多摩近隣の地域はM I Aが引っ張っていることもあって結構充実している。だから、実は多摩地域はすごく活発なのも事実だと思う。市民の方々の能力が高い。

(2) パブリックコメント及びワークショップの実施について

パブリックコメント及びワークショップの実施について、事務局より説明があった。

A委員	ぜひ当事者の外国人市民にもご参加いただけるといいと思う。
事務局	実際にどうご参加いただくか、お声をおかけするか等は今後の課題と考えている。
D委員	ぜひ進めていただけたらいいと思う。

3. その他

事務局	前回の懇談会において日本国籍市民に対して調査をしたほうがいいのかについてお尋ねした。したほうがいいとご意見をいただいたが、現在市民意識調査の一部として実施をしている。結果については改めて報告する。
C委員	いつごろ結果はまとまるのか。
事務局	懇談会でお示しできるのはかなり遅くなるが、最終回の第5回でご紹介できると思う。最終的なプランに反映させることがあれば、入れさせていただく。